岩見沢市

緑の相談コーナーだより

NO. 319　2012. 1. 1発行

岩見沢市志文町794番地
いわみざわ室内公園「色彩館」

身近な樹木“マンリョウ”（万両）
～正月の縁起ものとして親しまれる木～

真冬につぶらな小さい赤い実を結ぶマンリョウは、ヤブコウジ科の常緑小低木で、葉陰に垂れた深紅の実は、冬の野鳥たちの貴重な食料にもなります。日本の関東以西、台湾、朝鮮、中国、インドなどに分布しますが、この仲間のヤブコウジは北海道の奥尻島にも分布していることが知られています。しかし、本道で見かけるのは、縁起物として育てられてられている鉢物のマンリョウです。暖地では、樹陰などに自生し、とくに茶庭などで観賞用に栽培されます。茎は直立し、上部でまばらに小枝を出し、高さ60～90㎝になり、時には2ｍにおよぶものもあります。

同じように縁起ものとして馴染み深いセンリョウとよく似ていますが、マンリョウの葉はセンリョウよりもやや大きく、鋸歯はそれほど鋭くありません。7月頃、小枝の先に小さな白い花を咲かせますが、花後エンドウくらいの青い球果を結び、冬には熟して深紅になります。センリョウは葉の上に実を現しますが、マンリョウは葉の下に垂れるように実をつけます。また、マンリョウの方が実はやや大粒で、色も鈍い重々しさがあります。

マンリョウの名前の由来ですが、姿のよく似たセンリョウ（千両）に対するマンリョウ（万両）で、センリョウに勝るという意味からの縁起をかついだ命名だといわれます。万両、千両があれば百両や十両もありそうですが、カラタチバナ（百両）とヤブコウジ（十両）がこの名で呼ばれております。また、高知県地方では正月に「千両、万両、有り通し（アカネ科の植物アリドオシ）」といって、これらの赤い実を揃えて飾る風習があります。彩りの乏しい冬の山野や人家の庭に赤い実がなると、野鳥たちがめざとく見つけてついばみにきますが、こうし

マンリョウ
Ardisia crenata Sims

て種子は野鳥に運ばれ、糞に混じって散布されて繁殖していくのでしょう。これら、センリョウやマンリョウの縁起木が、俳句などで盛んに詠まれるようになったのは、何故か大正の末期以降です。

性質と効用についてですが、自然界では、暖地の山林の樹陰によく生育し、風の当たらない腐植質に富む湿潤なところを好むようです。北海道などの寒い地方では、防寒が必要となりますが、乾燥を嫌うので保水力のある軽い土に植え、強い日差しや乾燥に注意して育てましょう。樹形、葉の形態、果実の色などの組み合わせにより、多数の園芸品種がありますが、代表的なものとして、果実が黄熟するキミノマンリョウ、白熟するシロミノマンリョウ、橙色に熟するカバミノマンリョウがあります。

万両や待つともなしに待つこころ　　山口素人閑

公園だより

バラ園

新年おめでとうございます。ここ数年は、師走に入っても雪の少ない年がつづいていましたが、この冬の岩見沢は記録的な師走の大雪で、年前からの除雪に疲れてしまった人も多いかと思います。しかし、いち早く雪の季節を迎えたことで、バラ達は厚い雪の布団をかぶり、長い冬の眠りに入ることができました。この様子でいきますと、バラ達は寒風害の心配もなく、ゆっくり休んで春の目覚めを迎えることができるでしょう。今年もバラの季節が楽しみな新年の幕開けです。

♥**今月のバラ園からの一口メモ**は、バラの利用法の続きです。先月は花弁や実のジャムについて話しましたが、その他の利用法について紹介します。ドライフラワーやポプリなどの加工品は、一般に販売されたりしています。バラの枝葉の焼却灰は、陶芸の釉薬として用いたり、小さな脇蕾を集めたものをピクルスにしたりします。また、花弁を砂糖煮にして固めたり、香りの良い品種の花弁を集めて氷砂糖と共に焼酎に入れ、リキュールにするなどの利用法もあります。この場合、何れも農薬などの心配のない自家製のバラを用いるとよいでしょう。

室内公園色彩館では、サザンカの花が終わりに近づきましたが、ヤブツバキの花が新春を告げるように咲いております。また、フクシアの花や四季咲き性のバラも次々に開花しております。外界は大雪ですが、ここではお正月の日差しを受けて、緑の芝生も輝いて見えます。ハナミズキの蕾も少しずつふくらみを増し、春の訪れを待ちわびているようです。

南国温室では、四季なりミカンやブンタン、レモンが黄色く色づき、たわわに実ってきました。パパイアの実も次々に実り、アンスリュウム（オオベニウチワ）やストレリチア（極楽鳥花）、カラーの花々が咲き、トラフアナナスの赤い花茎が伸びてきております。ここだけは、南国ムードが溢れる別世界です。

相　談　日　記

問　庭のアオキの木のことで伺います。初夏に花が咲いたので、晩秋には堀上げ、鉢植えにして育て、冬に真っ赤な実をつけるのを楽しみにしていました。しかし、今になっても実がつく気配はありません。育て方に何か問題があるのでしょうか？有効な対処方法などがあれば知りたいのですが。

答　アオキには、北海道南部にまで分布するヒメアオキがあり、この園芸種も多く、耐凍性や耐雪性が強い常緑の庭木として、北国で植栽可能な数少ない樹木です。冬に真赤な実をつけるのが魅力の１つですが、アオキは雌雄異株のため、実がなるのは雌木だけで、雄木では実がつきません。一番考えられるのは、栽培しているアオキが雄木ではないかということです。花が咲いた時、花の中心を見てみましょう。雄しべが目立ち、雌しべがない場合は雄木です。雌木の場合は雌しべが目立っています。花を調べてみて、雄木のアオキだった場合は雌木を植えるしかありません。

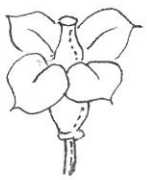
雌木なのに、実どころか花もつかない場合、剪定を行う時期を間違えた可能性があります。アオキはそれほど大きくなる木ではありませんので、剪定といっても伸び過ぎた枝を切ったり、茂り過ぎたところの枝を間引いたりする程度でかまいません。剪定の時期は早春です。７～８月頃では花芽を切り落としてしまうことになるので、花は咲きません。剪定していない場合は、まだ若木であることが考えられます。枝葉の数も少なく、小さい株の若木は、まだ花や実をつける力がないのです。

治療と防除のポイント　雌木ではなく雄木を植えてしまっている場合は、冬の赤い実を楽しむためには、新たに雌木を植えるしかありません。苗を買う場合には、しっかり確認して購入しましょう。

剪定の時期を間違えてしまったために、花が咲かなかった場合は、翌年きれいな実をつけるためにも、春のなるべく早い時期に剪定を行います。そうすれば、夏までに新しい枝がよく伸びるため、初夏には小枝の先に花序を出し、花をたくさんつけるとともに、晩秋までにたくさん実をつけることでしょう。株が幼い場合は、木が充実するまで、もう少し待ってあげて下さい。

雄花

アオキの雄木・雌木
の見分け方
（花をチェックする）



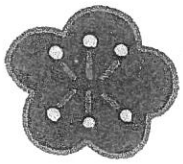
雌花

積雪下に耐える常緑の多年草～ヒマラヤユキノシタ　花言葉　適応

ユキノシタ科ヒマラヤユキノシタ属の植物で、耐寒性のある常緑の多年草です。ヒマラヤ地域の原産で、ヒマラヤ山系では標高3000ｍ以上にまで分布しております。岩見沢でも、雪解けを待って、いち早く太い花茎を株の中心からだし、ピンクか紅紫色の花を咲かせます。日本へは観賞用として渡来し、はじめ東北地方などの屋外で栽培されました。最近では、本道でも鉢植えの外、庭園の池まわりなどに植栽されています。日本名の由来は、ヒマラヤ産のユキノシタの意で、かつてはユキノシタ属で扱われていました。この仲間には、シベリアユキノシタやアルタイユキノシタなど、いくつかの近縁種があり、それらの交配による園芸種もできています。耐寒性があり、日陰にも耐え、美しい花を咲かせるので、グランドカバーにも使われます。鉢植えの場合は、日当たりのよい所で育てましょう。なお、葉が大きいので水を切らさぬように気をつけ、十分に水を与えましょう。

1～２月の園芸講座・行事案内

市民園芸講座の内容紹介



♣庭木・花木・果樹管理の基本

日時　１月２２日（日）　１３：００～１５：００

講師　緑化相談員（樹木医）　泉　征三郎　　定員　４０人　参加料　無料

♣土壌と肥料管理のポイント

日時　２月２２日（水）　１３：００～１５：００

講師　農業改良普及センター　普及指導員　さん　　定員　４０人　参加料　無料

✪第３回「岩見沢洋ラン展」

日時　２月２３日（木）９：００～２６日（日）１５：００

場所　室内公園「色彩館」ロビー　　主催　いわみざわ洋ラン愛好会

♣洋ラン栽培の楽しみ方

日時　２月２６日（日）　１３：００～１５：００

講師　北海道蘭友会理事　阿部　春樹　さん　　定員　４０人　参加料　無料

編集・発行　北海道グリーンランド（空知リゾートシティ株式会社）

お問い合わせは　室内公園「色彩館」緑の相談コーナー　25－6111 まで